

DEMからの地形パラメータの統計量をもとにした岩手火山地形の判読

Volcanic Landform of Iwate Volcano Interpreted from Statistics of DEM-derived Morphometric Parameters

プリマ オキディッキ [1]; 吉田 武義 [2]

OKY DICKY ARDIANSYAH PRIMA[1]; Takeyoshi Yoshida[2]

[1] 県大・ソフト; [2] 東北大・理・地球物質

[1] Faculty of Software and Information Science, IPU; [2] Inst.Min.Petr.Econ.Geol., Tohoku Univ.

近年、デジタル高度モデル (DEM) は、等高線の代わりにコンピュータによる地形解析や地形モデリングにおいて盛んに利用されてきている。DEMの登場によって、地形の任意の地点における傾斜角度や傾斜方向角度、曲率、開度などの地形パラメータの算出を容易に行えるようになり、さらに地形におけるそれらのパラメータ分布を把握できるようになった。しかしながら、ある領域における地形パラメータの統計量の意義を解釈することが容易ではない。Evans (1998) は、地形パラメータを軸としてカールを分類し、地形特徴における地形パラメータの範囲を示した。Prima et al. (2003) は、傾斜角度および開度の平均と標準偏差を用いて、地形自動分類方法を提案した。本研究では、岩手火山地形における地質年代について、傾斜角度および開度の平均と標準偏差から判読を試みた。その結果、比較的に地質年代の新しい岩手火山北東部とその他の部分を識別することが可能であることが分かった。